

仕事納め式にあたり一言ご挨拶を申し上げます。

まもなく年末を迎えますが、今年はいろんな意味で「新しい節目」の年となったのではないかと実感した一年でした。

まず、およそ2年間にわたって世界を震撼させ続けている新型コロナウイルスの感染拡大に対しまして、私は年度当初に「令和3年度を脱コロナ元年にしたい」と申し上げ、その後、厳しい状況にもなりましたが、9月14日以降、本市では感染者の報告は上がっておらず、平穏な年末を迎えることができいております。このことは、県下でもトップクラスのスピードで実施されたワクチン接種の効果であり、ひとえに医療関係者の献身的なご尽力のお蔭であると心より感謝申し上げます。また市民の皆様お一人おひとりのうがい・手洗い、マスクの着用など徹底した衛生管理と新しい生活様式の広がりにも敬意を表する次第です。しかし最近では、「第6波」の感染拡大も懸念される場所ではありますので、引き続き緊張感をもって注視してまいりたいと思います。

そして、10月には市長選挙・市議会議員選挙が行われましたが、私にとってはまさに初当選以来の「現職として受けて立つ選挙」でもあり、それは同時に三期12年間の評価をいただくまさに節目の審判であったと思います。その総括については、選挙直後の初登庁の挨拶で申し上げましたので、ここでは繰り返しません。そのことも踏まえた大きな節目と思えることをいくつか述べたいと思います。

一つは、人口減少及び過疎化が一層加速したことです。

特に、冒頭に申し上げたコロナ禍によって、全国的にも結婚適齢期の方々の出会う機会が失われ、婚姻届出数が著しい減少傾向にあると聞き及んでいます。このことは平戸市にとっても深刻な事態であり、人口減少対策に向けた平戸市総合戦略をより一層、強化かつ加速化させなければならないと思います。

これに加えて、コロナ禍における生活様式の変化により非接触型資機材が各分野において導入が進み日常化したことです。ICT等のデジタル技術の進展により、スマホやパソコン、タブレットなどの通信機器やそれらに導入されるアプリケーションなどのソフトウェアも進化していくこととなるでしょう。貨幣を介在しない電子マネーやカード決済、また買い物にでかけるという手間を簡略化するネットショッピングなど、こうした情報革命も前倒しして進められるという節目を迎えたと言えます。そうすると一方で、こうした技術革新にキャッチアップできない世代や地域間の格差が生じることとなり、新たな行政課題になることも想定しなければなりません。

そうした中、行政課題も次のステージへと歩みを進めなければならない重要な節目を迎えることとなりました。

例えば、懸案でありました公共交通政策については、平戸市公共交通網形成計画の策定により、一定の方向性を描くことができました。この課題解決に向けた作業は、本会議一般質問の答弁でも申し上げたように、運行ルートの整理、ダイヤ改正、運賃設定などの要素を含んだ三次方程式という難解な謎解きであると同時に、全ての利用者の利便性に充分には到達することができないという最大公約数の限界があるということです。しかし、この高く厚い壁を乗り越えることができたことは、市議会からも高い評価を頂いており、今後もこの終わりのない取組みに真摯に向

き合ってまいりたいと思います。

また、コロナ禍で停滞していた観光行政についても、次のステージに進むべく重大な節目を迎えることとなりました。平戸市のシンボルでもある平戸城の改修および城泊の実践など、画期的な取組みが着実に展開されておりますし、平戸オランダ商館 10 周年を迎えるにあたって、新しい展示内容を加えて、より一層魅力ある演出が用意されています。そしてこれらを支える組織体として平戸観光協会がDMO認定を受け、自立した推進母体に生まれ変わったことも大きな節目の一つに位置付けるべき事業であったと思います。

その他にも、教育現場におけるGIGAスクール構想の実質的な運用が始まったことや、空き家対策を抜本的に進めていく上で、民間の発想や技術などを有する団体である古民家再生協会長崎と連携協定を締結したこと。さらに環境政策においては、第二次平戸市地球温暖化実行計画及び平戸市CO2排出ゼロ都市実行計画の見直しも含めた後期計画が策定されたことも大きな節目であり、次のステージに進む重要な指針を示すことができた次第です。

そして何より、財政力に乏しかった本市の施策展開も、「スクラップ&ビルド」という言葉に象徴される緊縮マインドで抑制されてきましたが、こうした取組みは、市民の皆様のご理解と担当者各位の創意工夫などによって行財政改革が進められたことに加え、国の交付税措置も相まって、財政指数はいずれも好転し、先の市議会でも積極財政論が出てくるなど、市民サービスの向上を目指した軌道修正が求められるようになりました。

ただし、だからと言ってやみくもに公共投資が許される訳でもありませんが、何より柔軟かつ思い切った発想の転換が求められることになる新しいステージが目前に控えているということです。

そうした意味において、私自身、これまでの三期 12 年間とこれからの四期目以降は、一つ上の段階のステージに立って行政運営を進めなければならない転換期にあるという認識をしています。どうか職員各位におかれましても、この時代的意義を十分に共有していただき、新年に向けた決意を新たにしていきたいと思いますと思う次第であります。

平戸市行政は、すでに各方面において、あらゆる部門に秀でたパートナーとの連携協定を幾つも締結しています。そうした人脈や組織が有する知見や技能、経験などを、私たちの将来世代が避けて通れない課題の解決に協力してもらおうべく、より一層連携を強化していかなければならないと思います。そして、職員お一人おひとりが常に向上心を抱きながら、これまで以上に謙虚で真摯に業務に向き合い、「優先すべきは市民のため」をモットーに判断し、行動できるよう心がけていただきたいと思います。それと、年末に当たって念のため申し添えますが、くれぐれも飲酒運転だけは絶対にしないよう固く心に刻んでいただくとともに、暴飲暴食によって健康が損なわれないよう注意してください。

最後になりましたが、本日は山田能新議長、神田全記副議長はじめ議員各位におかれましては、わざわざご臨席を賜りご激励をいただきましたこと誠にありがとうございました。

来年も引き続きご指導ご助言くださいますようお願い申し上げます。

以上をもって仕事納めのご挨拶と致します。